

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092600149		
法人名	社会福祉法人 瑞豊会		
事業所名	グループホーム楽生縁		
所在地	福岡県行橋市大字東徳永167-6 (電話) 0930-26-1022		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 12 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 12 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季折々の行事や景色を楽しんだり、行事に合わせた食事やおやつを提供を行っています。健康面では看護師は常駐していませんが、日々の健康管理や服薬管理を行い、ご利用様が、体調不良と思われる際はONコールで訪問看護の看護師が対応できる仕組みになっています。また、連携する整形病院の理学療法士の指導の下、上下肢の筋力や体感機能の向上が図れるようにリハビリや体操に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 21 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは郊外の閑静な場所にあり、木造平屋で自然豊かな環境にある。敷地内にデイサービスセンターやケアハウス等があり、連携をとりながら利用者支援を行っている。2ユニットあり、利用者は相互に交流している。リビングの大きな窓から四季の変化を感じられる事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、「笑顔・元気・感謝」と基本方針を見やすい場所に掲示し、名札にもいれている。職員は笑顔を大切に利用者に寄り添い、利用者が元気に笑顔で暮らせるように支援に努めている。	法人理念、基本方針に地域と共に生きるという地域密着の視点がある。職員の名札に理念が記載されている。ミーティングの際に理念等を振り返るように心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のケアハウスで行われる合同の敬老会、クリスマス会、もちつき等の行事や活動に、利用者と職員が参加し、地域の方やボランティア、幼稚園児、保育園児との交流を楽しんでいる。また地域交流センター開放する等、地域との繋がりを大切に取組んでいる。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。	町内自治会に加入している。認知症の方の地域の搜索活動等に参加している。敷地に地域交流センターがあり、地域ボランティアや幼稚園児、小中学校との交流していたが、コロナ禍で中止している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月毎に開催し、家族や地域代表、行政、地域包括支援センター職員の参加を得ている。それぞれの立場からの質問や意見、情報提供等、活発な意見交換会となっている。出された意見や要望は職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。	コロナ禍前は2ヶ月に1回開催していたが、コロナ禍で中止しており、現在もまだ中止している。	コロナ禍における運営推進会議の臨時的な取り扱いには終了しているため、書面ではなく、集合形式で開催してほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、事故等の報告は行政担当窓口に出向いて行っている。行政主催の研修会への参加や地域包括支援センター職員による月1回の勉強会等、行政と連携を図っている。また、2ヶ月毎の運営推進会議に、行政、包括支援センターの両方から参加があり、情報交換しながら協力関係を築いている。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。	管理者や計画作成担当者は行政や地域包括支援センターとの連携を図るよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議や毎日の申し送り時に気づいたことを話し合い、意識付けを行っている。言葉や薬の抑制も含め、具体的な禁止行為の事例を挙げて検討し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	日中、玄関は施錠していない。身体拘束防止委員会があり、2ヶ月に1回、法人全体で会議を開催している。年1回、職員研修を開催し、研修資料を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行い、職員と情報の共有をし防止に努める。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の制度を正しく理解できるよう、勉強会を実施し、共通理解に努めている。制度に関する資料を用意し、必要時には、申請手続きの説明を行い、制度を活用できる支援体制を整えている。現在、制度活用の利用者はいない。	職員は法人で行われている権利擁護に関する勉強会に参加している。権利擁護に関する制度については、入所時や必要に応じて家族等に説明を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ家族の意向を確認し、入居後の意向も聞き、家族に安心してもらえるように配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、面会や運営推進会議の時、または電話にて、意見や要望を聴いている。利用者については、日常の暮らしの中で、意見を言いやすい環境を作り、傾聴するように心掛けている。	利用者は日常的に意見や思いを職員に伝えることができる。家族からの意見は、面会時等に聞き取っている。外出先や食事内容等の意見があり、可能な限り運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、パート職員も含め、夜勤者以外全員参加の職員会議を開催している。職員からは、意見、要望が活発に出され、出された意見に関しては、できるだけ反映するように努めている。やむを得ず欠席した職員には議事録を回覧し、サインを義務付け、情報を共有している。	職員からの意見は、普段の活動や年2回の個人面談等で聞き取りを行っている。行事の企画や利用者の支援方法等の意見が出され、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し頑張っている職員のはきちんと評価している。また、各自の勤務条件は変更の希望あれば随時、話を聴いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、資格の制限はない。園芸やおやつ作り、室内の装飾等、職員がそれぞれ得意分野を十分に発揮できる環境を整えている。 また、希望休についても月2回以外にも相談の上、出来るだけ休みたい時に休めるよう配慮している。	職員募集や採用において、性別や年齢での排除はされていない。働きやすい環境作りを目指して、教育訓練や昇進が公平に行われるように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳や権利を守る介護サービスが出来ているか、職員会議や申し送り時に確認し、気づいた時には注意し合っている。 職員は、言葉かけや対応に気をつけ、人生の先輩への敬意を忘れずにツネに意識しながら、日々の業務に取り組んでいる。	利用者に対する人権を尊重するために、職員会議や申し送り時に利用者への対応の仕方を確認し、職員間で注意し合っている。 研修は実施しておらず、職員が様々な差別について学ぶ機会が設けられていない。	高齢者の人権や障がい者、子ども、同問題等、様々な差別について、全職員が学ぶ機会を設けてほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。法人内での研修を地道しすこしずつ知識を増やしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様であり、また、家族であることを意識し日々の支援にあたっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に立ち、今までの関係を崩さないように、細かい事も連絡し不安にならないように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域から入居の利用者が多く、家族や親戚、友人、知人の面会が多い。家族対応で馴染みのかかりつけ医の受診や理・美容院を利用する等、利用者が長年築いてきた人間関係や、馴染みの地域との関わりが継続出来るように支援している。併設ケアハウスやデイサービスの利用者との交流もある。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。	馴染みの場所や人は、入所時に家族から聞き取って把握している。電話等で友人との交流が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の関係をより円滑にし日常が楽しく過ごせるように努める。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればしっかり話を聞ける体制を整えている。法人内に他の介護事業所を揃えている為、最後まで支援できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを取る中で、思いや意向を察知し、把握するよう努めている。困難な場合には、家族に相談したり、様子から気持ちを汲み取ったりしながら、カンファレンスの中で、本人本位に検討している。	日々会話をしながら思いをくみ取り、時には家族に話を聞いている。思いは職員が把握し、安心して楽しく生活できるように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き取り、全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医に相談し、現状にあった介護計画の作成、実践に努めている。	毎月のミーティングで利用者の細かな変化についても話している。大きな変化があった時は介護計画の変更を行うが、基本的に6ヶ月に1回更新の時に話し合っって介護計画を作成している。家族とも話をして同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夜勤報告、日勤帯での状況や受診時の対応等、業務日誌に記入し見直し等に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	きちんと把握はできていない。本人の健康管理や安心して過ごせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と入居時に話し合い、ほとんど近隣の病院への受診を希望している。受診は家族、または、職員が対応し、報告を密に行い、医療情報の共有に努めている。緊急時には、救急搬送で対応し、法人内の訪問看護の利用と併わせ、24時間安心出来る医療体制が整っている。	入居前からのかかりつけ医を継続するか、入居を機に変更するかは利用者や家族の意向に沿っている。受診支援は家族が行っているが、難しい場合は職員が付き添っている。受診後の報告を家族に行っている。また訪問歯科が週1回、訪問看護が週2回ある。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。週に1回ホーム内で健康管理を行う。入居者に異常や異変があればすぐに連絡しホームに来てくれ状態観察をしてくれる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係をつくるまでは行っていない。入院後も面会や連絡をし状態の変化はないか確認している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームで出来得る支援について、利用者や家族に説明し、看取りは行わない方針を伝え、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、病院や他施設への転居を含め、本人にとって最善の環境で終末期を過ごせるよう支援に努めている。	重度化や終末期における対応及び看取りについては、入居時に家族に説明しているが、具体的に明文化されていない。状態悪化や看取りに近づいた場合、利用者や家族、医師と話をしながら利用者が安心して生活できる場所を決めている。	利用者や家族、関係機関と共通認識で支援を行えるよう、重度化や終末期に向けた事業所の対応方針について明文化することを期待する。
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修でAEDの使い方を学ぶ。また、職員会議等で急変時の行動について話し合いスムーズな対応を心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を昼夜を想定して年2回実施し、消防署の協力と参加を得ている。非常災害時に、併設事業所の職員が、出火場所によって駆けつける体制が確立している。また、通報装置や消火器の使い方の確認や利用者を安全に難場所に誘導し、二次災害が起こらないように見守りが出来る体制を目指している。	避難訓練は年2回、日中及び夜間想定の実践を行っている。消火・避難訓練通知書を消防署に提出している。今年度は、1月に避難訓練とAEDの訓練を予定している。非常用備品は事業所内に保管している。避難訓練を実施する際に、地域住民に呼びかけていない。	非常時には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議や民生委員、行政等を通じて地域住民に訓練参加の協力を呼びかけてほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重する事と、プライバシーを大切にすることに対応している。その人に合った声かけや言葉を選び、プライバシーを傷つけないような対応を心掛けている。利用者の近くで、職員同士が利用者についての話をしない等、気になる事は注意し合い、改善に努めている。	おむつ交換等は人目につかないように配慮して支援している。プライバシーに関する勉強会が法人で行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言える方の思いは尊重し、言えない方は職員の声かけで表現できるように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先し、入居者の都合で過ごせるように努める。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを整えるように努める。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房からの配食による食事を盛り付け、提供している。炊飯は3食ホームで行い、利用者一人ひとりの状態に応じて刻みを行う等、それぞれに合った形態で提供している。月1回のおやつづくり等、利用者の力を活かしながら、作って食べる楽しみを味わえるよう支援している。	併設施設の栄養士が献立を立て、配食されたものを利用者と一緒に盛り付けを行っている。主食のご飯とパン、肉と魚の選択をすることができる。月に1回、誕生日の行事食と、モンブランケーキやおはぎ等の手作りおやつを提供し、利用者から喜ばれている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し状態を観察している。いつもと違えば、看護師に報告し指示を仰ぐ。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している方は、診ていただいている。また、朝食後、昼食後、夕食後と1日3回口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つように努める。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛け、誘導を行い、重度の利用者も、日中は2人介助でトイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯も、起きて来られる方は誘導し、その方の心身の状況に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう随時、誘導を行っている。日中はリハビリパンツとパットを使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便した際には排便チェック表に記入し確認しちる。排便ができていなければ看護師に報告し服薬等の対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組んでいる。ユニット2に機械浴を設置している事から、利用者全員をユニット2に集め、安心、安全の入浴支援を行っている。	週に2回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入浴することができる体制がある。現在、皮膚疾患のある利用者があるため、毎日入浴やシャワーを行っている。入浴を望まない利用者については、時間をおいて声をかけたり、翌日に入浴したりと臨機応変に対応し、清潔保持に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとり就寝時間が違い、その人のペースに合わせて就寝してもらおう。不眠にならないように職員が声かけ等でフォローするように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は看護師に一任しているが看護師より薬の内容を教えてもらい、服薬後の反応は随時報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割等はできていないが、気分転換ができ、同じ毎日にならないように努める。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防のため、外出の支援が難しい状況であるが、初詣には全員で出かけ、近所の神社にお参りをした。園芸の得意な職員が、玄関前にプランターにたくさんの花を植え、利用者と一緒に花を眺めながら外気浴を楽しむ等、少しでも戸外に出る事ができるよう、支援している。	天気や体調を見ながら、週2～3回事業所周辺を散歩している。年3～4回、花見等のドライブを行ったり、月1回、コンビニが移動販売に来るので、利用者は買い物を楽しんでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事があるときは利用者が自分で携帯電話を使用し家族と話し気分を落ち着かせている。また、家族から電話がかかってきた際に本人に変わってお話する事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は採光や温度・湿度・換気・清掃に注意し、清潔で過ごしやすい共用空間である。また、玄関前のプランターに花を植え、季節感を大切にしている。リビングルームは、広くて明るい為、両ユニット合同で体操を行う等、利用者同士が行き来きしながら楽しく過ごしている。室内には、利用者の笑顔の写真季節毎の飾り物を掲示し、生活感のある家庭的な雰囲気である。	共用空間には大きな窓と天窓があり、明るく開放的である。自然光が差し込み、カーテンで調整している。また、四季の手作りの作品が飾られ、季節が感じられるよう配慮している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるような配置には配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での転倒を防ぐため、大きな者はテレビ程度にしてもらい、クローゼットに入る程度の持ち物の持ち込みをお願いしている。利用者の動線に配慮しながら配置を考え、安心、安全に過ごせるよう、家族と相談しながら支援に取り組んでいる。	居室は備え付けのベッドとクローゼットがある。家具やテレビ等は使い慣れたものを持ち込んでいる。また、家族写真等が飾られ、利用者にとって落ち着く雰囲気づくりを支援している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、機能が低下しないように生活できるように支援する。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、「笑顔・元気・感謝」と基本方針を見やすい場所に掲示し、名札にもいれられている。職員は笑顔を大切に利用者に寄り添い、利用者が元気に笑顔で暮らせるように支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のケアハウスで行われる合同の敬老会、クリスマス会、もちつき等の行事や活動に、利用者と職員が参加し、地域の方やボランティア、幼稚園児、保育園児との交流を楽しんでいる。また地域交流センター開放する等、地域との繋がりを大切に取り組んでいる。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月毎に開催し、家族や地域代表、行政、地域包括支援センター職員の参加を得ている。それぞれの立場からの質問や意見、情報提供等、活発な意見交換会となっている。出された意見や要望は職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、事故等の報告は行政担当窓口に出向いて行っている。行政主催の研修会への参加や地域包括支援センター職員による月1回の勉強会等、行政と連携を図っている。また、2ヶ月毎の運営推進会議に、行政、包括支援センターの両方から参加があり、情報交換しながら協力関係を築いている。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議や毎日の申し送り時に気づいたことを話し合い、意識付けを行っている。言葉や薬の抑制も含め、具体的な禁止行為の事例を挙げて検討し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行い、職員と情報の共有をし防止に努める。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の制度を正しく理解できるよう、勉強会を実施し、共通理解に努めている。制度に関する資料を用意し、必要時には、申請手続きの説明を行い、制度を活用できる支援体制を整えている。現在、制度活用の利用者はいない。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ家族の意向を確認し、入居後の意向も聞き、家族に安心してもらえるように配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、面会や運営推進会議の時、または電話にて、意見や要望を聴いている。利用者については、日常の暮らしの中で、意見を言いやすい環境を作り、傾聴するように心掛けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、パート職員も含め、夜勤者以外全員参加の職員会議を開催している。職員からは、意見、要望が活発に出され、出された意見に関しては、できるだけ反映するように努めている。やむを得ず欠席した職員には議事録を回覧し、サインを義務付け、情報を共有している。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し頑張っている職員のはきちんと評価している。また、各自の勤務条件は変更の希望あれば随時、話を聴いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、資格の制限はない。園芸やおやつ作り、室内の装飾等、職員がそれぞれ得意分野を十分に発揮できる環境を整えている。 また、希望休についても月2回以外にも相談の上、出来るだけ休みたい時に休めるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳や権利を守る介護サービスが出来ているか、職員会議や申し送り時に確認し、気づいた時には注意し合っている。 職員は、言葉かけや対応に気をつけ、人生の先輩への敬う気持ちを忘れずにツネに意識しながら、日々の業務に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。法人内での研修を現地しすこしずつ知識を増やしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し情報の共有をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様であり、また、家族であることを意識し日々の支援にあたっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に立ち、今までの関係を崩さないように、細かい事も連絡し不安にならないように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域から入居の利用者が多く、家族や親戚、友人、知人の面会が多い。家族対応で馴染みのかかりつけ医の受診や理・美容院を利用する等、利用者が長年築いてきた人間関係や、馴染みの地域との関わりが継続出来るように支援している。併設ケアハウスやデイサービスの利用者との交流もある。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の関係をより円滑にし日常が楽しく過ごせるように努める。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればしっかり話を聞ける体制を整えている。法人内に他の介護事業所を揃えている為、最後まで支援できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを取る中で、思いや意向を察知し、把握するよう努めている。困難な場合には、家族に相談したり、様子から気持ちを汲み取ったりしながら、カンファレンスの中で、本人本位に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き取り、全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医に相談し、現状にあった介護計画の作成、実践に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夜勤報告、日勤帯での状況や受診時の対応等、業務日誌に記入し見直し等に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	きちんと把握はできていない。本人の健康管理や安心して過ごせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と入居時に話し合い、ほとんど近隣の病院への受診を希望している。受診は家族、または、職員が対応し、報告を密に行い、医療情報の共有に努めている。緊急時には、救急搬送で対応し、法人内の訪問看護の利用と併わせ、24時間安心出来る医療体制が整っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。週に1回ホーム内で健康管理を行う。入居者に異常や異変があればすぐに連絡しホームに来てくれ状態観察をしてくれる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係をつくるまでは行っていない。入院後も面会や連絡をし状態の変化はないか確認している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームで出来得る支援について、利用者や家族に説明し、看取りは行わない方針を伝え、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、病院や他施設への転居を含め、本人にとって最善の環境で終末期を過ごせるよう支援に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修でAEDの使い方を学ぶ。また、職員会議等で急変時の行動について話し合いムズナ対応を心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を昼夜を想定して年2回実施し、消防署の協力と参加を得ている。非常災害時に、併設事業所の職員が、出火場所によって駆けつける体制が確立している。また、通報装置や消火器の使い方の確認や利用者を安全に難場所に誘導し、二次災害が起こらないように見守りが出来る体制を目指している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重する事と、プライバシーを大切にすることに対応している。その人に合った声かけや言葉を選び、プライドを傷つけないような対応を心掛けている。利用者の近くで、職員同士が利用者についての話をしない等、気になる事は注意し合い、改善に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言える方の思いは尊重し、言えない方は職員の声かけで表現できるように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先し、入居者の都合で過ごせるように努める。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを整えるように努める。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房からの配食による食事を盛り付け、提供している。炊飯は3食ホームで行い、利用者一人ひとりの状態に応じて刻みを行う等、それぞれに合った形態で提供している。月1回のおやつづくり等、利用者の力を活かしながら、作って食べる楽しみを味わえるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し状態を観察している。いつもと違えば、看護師に報告し指示を仰ぐ。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している方は、診ていただいている。また、朝食後、昼食後、夕食後と1日3回口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つように努める。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛け、誘導を行い、重度の利用者も、日中は2人介助でトイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯も、起きて来られる方は誘導し、その方の心身の状況に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便した際には排便チェック表に記入し確認しちる。排便ができていなければ看護師に報告し服薬等の対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組んでいる。ユニット2に機械浴を設置している事から、利用者全員をユニット2に集め、安心、安全の入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとり就寝時間が違い、その人のペースに合わせて就寝してもらおう。不眠にならないように職員が声かけ等でフォローするように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は看護師に一任しているが看護師より薬の内容を教えてもらい、服薬後の反応は随時報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割等はできていないが、気分転換ができ、同じ毎日にならないように努める。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防のため、外出の支援が難しい状況であるが、初詣には全員で出かけ、近所の神社にお参りをした。園芸の得意な職員が、玄関前にプランターにたくさんの花を植え、利用者と一緒に花を眺めながら外気浴を楽しむ等、少しでも戸外に出る事ができるよう、支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事があるときは利用者が自分で携帯電話を使用し家族と話し気分を落ち着かせている。また、家族から電話がかかってきた際に本人に変わってお話する事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は採光や温度・湿度・換気・清掃に注意し、清潔で過ごしやすい共用空間である。また、玄関前のプランターに花を植え、季節感を大切にしている。リビングルームは、広くて明るい為、両ユニット合同で体操を行う等、利用者同士が行き来きしながら楽しく過ごしている。室内には、利用者の笑顔の写真季節毎の飾り物を掲示し、生活感のある家庭的な雰囲気である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるような配置には配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での転倒を防ぐため、大きな者はテレビ程度にしてもらい、クローゼットに入る程度の持ち物の持ち込みをお願いしている。利用者の動線に配慮しながら配置を考え、安心、安全に過ごせるよう、家族と相談しながら支援に取り組んでいる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、機能が低下しないように生活できるように支援する。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		